

○ 八ヶ岳

2015年1月3（土）～4日（日）

岡本（記）・右田

年末からの寒波で、道路状況に不安があったが、まあ何とかなるだろうと、3日朝4時半過ぎに自宅を出発。能勢町に入ると道路は積雪、一部凍結している所もあるが、そこは四駆+スタッドレスタイヤでスイスイと走る。右田さん宅を6時前に出発し、名神を関ヶ原方面に向け走る。京都辺りから一面の銀世界で、チェーン規制はあるものの、道路は殆ど除雪され、正月3日と言うのに渋滞に巻き込まれることなく関ヶ原を通過、美濃戸口からもスタッドレスタイヤだけで無事通過でき、予定通り11時半頃には美濃戸に到着。



（赤岳鉱泉）

12時過ぎに出発、天気は快晴、70Lのザックさえなければ最高の登山日和だ。赤岳鉱泉への道は、堰堤広場までは車道を行き、そこから近道となる登山道に入る。テント泊の為、荷物は重いものの、車道部分は急な登りもなく、歩き易い。登山道に入ってから比較的歩き易く、この北沢コースの方が、南沢の行者小屋までのコースに比べ、かなり楽な感じだ。樹林帯が開けると、アイスクライミングの練習場が見え、そこが赤岳鉱泉だ。今日はここでテントを張る。まだ2時過ぎで、それから夜まで飲む。



（左、中岳、右、阿弥陀岳）

翌朝、外を見るとどんよりしている。今日が一番の天気と思っていたのに、少しがっかりだ。天気の回復を期待しつつ7時半頃テント場を出発、まずは赤岳を目指す。行者小屋までは楽勝を思ったが、中山乗越までが意外にきつい。後で地図をみると170mほどの登りだ。行者小屋で少し休み、そこから無難な文三郎尾根に行く。一時間余りの登りではあるが、この登りは結構きつい。何度も立ち止まり、息を継ぎながら進む。尾根の途中、少し明るくなり、

中岳・天狗岳が綺麗に見える。天気への期待は膨らんだが、その後、一向に良くならない。天気予報というのは本当に当てにならないものだ。尾根に出た途端、急に飛ばされそうになる。オーバージャケットを出そうとすると、ピッケルを持っていた右手の人差し指に全く感覚がないのに気づく。風が強く、中々ジャケットも着れず、暖かい手袋と目差し帽を探そうにも、それもままならない。漸く準備ができ赤岳を目差すが、指の感覚が中々もどらない。また、息が直接サングラスの中に入るため曇って前も見えにくく、難儀する。ザックの中にはゴーグルも入っているのだが、場所

柄のんびりと出している間も無いので、そのまま岩場を登る。

頂上に着くと、誰もいない。途中、何人かのグループにも会ったのだが、早々に退散したのだろう。指の感覚も戻ってきたので、写真を撮ろうとするが、今度は景色があまりよく見えない。と、その瞬間、突然雲が薄くなり富士山も見えたのだが、写真を撮ろうとする間に、よく見えなくなる。風も強く、頂上山荘の方で休む適切な場所はないかと探したが、適切な場所もなく、5分程で退散。

予定では、そこから阿弥陀岳へ行く予定であったが、最初見えていた阿弥陀岳も徐々にガスの中に隠れ、風も一向に収まらない。結局、見送ることとし、そのまま同じ文三郎尾根を下る。行者小屋で残念会でもしようかと思ったが、最終営業日で、店はすでに閉まっております、そのまま赤岳鉱泉のテントに戻る。その頃には、少し雪がばらつき出し、今後の予定を検討ということで、まず缶ビールを買って、テントに籠もる。

ビールを飲むと更に歩く気力が低下し、天候も回復しないことから、明日は更に天候が悪くなるとの結論になり、午後2時頃になりテント撤収を決定、一気に美濃戸まで下る。正月最終日で、早く出ても渋滞に巻き込まれるだけだと思い、とりあえず温泉に浸かる。ビールとノンアルコールで乾杯、そばを食って午後6時前に八ヶ岳を出発。予想に反し、全く渋滞に巻き込まれず、午後10時半前には右田宅に到着。少し不完全燃焼気味の山行であったが、次の連休に託することにした。

<参考タイム>

(1/3) 12:10 美濃戸 → 14:10 赤岳鉱泉

(1/4) 7:30 赤岳鉱泉 → 8:02 行者小屋(休) → 8:17 阿弥陀岳分岐 → 9:15 文三郎尾根上 → 9:55 赤岳山頂(10:05発) → 11:10 行者小屋(10:36発) → 12:00 赤岳鉱泉(大休止、テント撤収、14:40発) → 15:40 美濃戸着



(人気のない赤岳山頂付近)